

日本の水なし印刷業者への駆け足旅行を行ってきたが、「WPAの蝶々マークを環境対応、販売促進への価値付け」を完璧にまで啓発を行っている、印刷刺激集団であることが分かった。日本滞在の10日の内、丸5日間で日本の高速・効率化鉄道網のおかげで、10社の印刷会社を訪問することができた。その旅行は東京、大阪、名古屋、京都、米沢と1400km以上にも渡るものであった。駆け足旅行の合間に、8月1~2日、岡崎市で開催された日本水なし印刷協会(日本WPA)の記念総会に出席、ならびに東レの岡崎新工場CTP製造ラインの見学をさせていただいた。また、インキメーカーの実力会社、大日本インキ化学工業様の東京本社と印刷機械メーカーの小森コーポレーション様を表敬訪問させていただいた。

日本の印刷の歴史:急速な発展

日本の印刷の歴史は1000年以上にも及ぶが、その発展は西洋社会のものとは異なったものであった。それは、グーテンベルグが発明した植字活字が鎖国政策のために19世紀半ばまで日本に伝わらなかったからである。



世界で最も水なし印刷の経験(30年)を持つ印刷会社の、水なし専用印刷機の前で左から五百旗頭忠男氏(日本WPA)、同社技術顧問・鎌野亮二氏、文祥堂印刷株式会社・顧問・松重精(日本WPA会長)

短期間の印刷の歴史の中で、水なし印刷を含む最近の印刷技術を駆使する印刷業者が3000社もあるから驚きである。今日、日本では大台、水なし専用枚葉印刷機は100台以上、水なし専用オフ輪機は30台が稼働している。



蝶々マークで大成功

我々が訪問するところはどこでも、蝶々マークの使用は際立っていた。一般パンフレット、グリーティングカード、出版物はともかく、日本ビクター、パイオニア、富士通などの国際的な製品のパッケージに使われている。また、日本の印刷人は名刺とか車に蝶々マークをあしらっている。日本の印刷人が一番、印刷物を通して我々のマークを世界に広めてくれている。

CTPは普及している

訪問した10社には全て、CTP装置を使っていた。その製品名はクレオ、富士フィルム、ローテム、スクリーン、東レなどであった。日本の印刷界ではCTPは2年ほど技術的のおくれを取ったが、迅速にキャッチアップされたようだ。スクリーン線数は175線であるが、いくつかの会社では300線をこなしていた。



我々が見たCTP装置の中に、左の東レCTPセッターがあった。前方の大きい装置は自動給版装置で、CTPセッターに必要な版を供給してくれ、出てきた版は東レ現像装置に流れて行く。何台かの東レ版現像装置には自動積載給版装置と自動カパーフィルム除去装置がついていた。

水なしオフ輪が多数設置

最も驚いたことはこれほど多数のオフ輪機が市場で稼働していることであった。前述したが、日本では30台もの水なし専用オフ輪機が24時間運転で稼働していた。こんなに多くの機械が水なしで使われている理由は説明しにくいだが、多分、東レの営業・サービスの専属スタッフ15名が良く面倒を見ているからであろう。100年の歴史を持つ凸版印刷株式会社は従業員数、12748名であるが、ある主力工場のオフ輪生産高の10%は6台の水なし専用オフ輪機での生産によると言う。同工場では10台の枚葉水なし専用機を設備していた。この巨大印刷会社は1980年から水なし印刷を始めていた。



大阪府堺市の高速オフセットは水なし専用輪転機を操作していた。同社の輪転機は日本で稼動している 30 台の中の一
台である。

整頓のいき届いた北星社(本社・兵庫県豊岡市)の寄居工場では 2 台の 6 年製の小森オフ輪機が新聞折込、雑誌と幅広い印刷をこなしていた。同社では隔週発行の 200 ページにわたる中古車の情報誌を水なしオフ輪で印刷していた。

水なしサンデープレス

名古屋の株式会社アイカは 20 年前から水なし枚葉機を 10 年前から水なしオフ輪機を使っているが、この 11 月にはハイデルベルグの水なし専用サンデープレスが導入される。これは世界最初の水なし専用サンデープレスである。

多種多様の枚葉印刷

東京都港区の文祥堂印刷株式会社を歓迎の中で訪問させていただいたが、水なし印刷の歴史は 30 年に及ぶと言う。松重精顧問は日本 W P A 会長を勤められている。

55 年の歴史を持つ東京都の株式会社文星閣は平均ロットは 4000 枚の仕事を日に 600 版をこなしている。奥継雄社長は大変勢力的な社長で、120 名の昼間勤務社員、60 名の夜間勤務社員の先頭に立っている。同社は 22 台もの配送専門車を所有しているとは驚いた。



東洋紙業では自動搬送装置により、印刷工場への用紙の搬入、刷了紙の製本部への搬送を自動化し、省力化をはかっていた。



野崎紙業のプリプレス制作者は顧客の着物のサンプルの仕事をこなしている。

東海大日本印刷は 15 年前に水なし印刷を始め、5 台の枚葉オフセット機を水なしで使っている。会社幹部の話だと、水なし印刷の利点はオペレーターの習熟度が低くても使いこなせる点だ。大阪市の東洋紙業では 7 台の水なし専用枚葉機で月間 8000 版の仕事をこなしている。生産方式は組織化され、自動化が図られているため、1 台の機械に 1.25 人のオペレーターが付いているに過ぎない。古都、京都にある野崎印刷紙業を訪問したとき、同社は博物館、芸術家向きの高精細水なし印刷を売物にされていることを見出した。同社は繊維の細かい質感を高精細での表現を求めてくる着物メーカー向けに水なし印刷を行っていた。富士フィルムの 4000dpi プレートセッターで製版していた。

最後の訪問先、米沢市の精英堂印刷はパッケージ分野で成功を納めている印刷会社であった。同社はこの 5 年前に水なし印刷を導入した会社であるが、その成功は多彩な蝶々マークの使いこなして推し量れる。同社は東北一円の酒造メーカーのラベルを水なしラベル輪転機で印刷している。

環境への名声

我々の疾風訪問で日本の水なし印刷の状況を多少なりとも紹介できることとなろう。その違いを考えたとき、日本の印刷会社と他の国の大きな違いは、蝶々マークの献身的までもの使い方の差であろう。蝶々マークを水なし印刷による環境への利点を全面に出している。蝶々マークの使用を好感してくれる日本の印刷発注者の反応により、水なし印刷の一層の普及に繋がっている。印刷業界、一般産業界に高水準の自己規制の環境責任が課せられていると見うける。これはどこにいても商売を張るからには印刷会社、発注者が心しなければならぬことだ。この違い以外、経済状況、市場性、ビジネス実技などは他の国と差があるものではない。この訪問につき世話役までアレンジして下さった東レ様に深く感謝申し上げたい。日本水なし協会の五百旗頭忠男氏に通訊、手配の努力に特別の謝辞を申し上げたい。

R P I は新型小森機を激賞する

時たまではあるが、水なし印刷機の機械の使用状況の電話を会員の方から頂く。Gary Rellar

から小森の新型リスロン S40 につき、思った以上の働きをしていると聞き喜ばしく思っている。この 1 月に新鋭機を入れたが、数点の改良が加えられた結果、水なし印刷での筋の断れる問題は解消された。Gary の報告によると、薄紙でも厚紙でも最高速で印刷できると言っている。

日本水なし印刷協会(日本 WPA)が DI 印刷にハイライト

日本 W P A 会員の大半が参加した総会が 8 月 2 日に開催され、水なし印刷での小ロットカラー印刷の活用事例、プレステック D I を搭載したクイックマスター D I の使用先、他の機械を使っているユーザーがパネラーとして参加し、内容討議、使いこなし方の発表などがなされた。ハマダ印刷機から新機種、水なし専用印刷機、エコグラファーの内容紹介があった。



驚くほどの印刷サンプルが会場内に展示された。そのほとんどに蝶々マークがつけられていた。



この総会で文星閣(奥継雄社長)が印刷ネット E M S による I S O 14001 取得が披露され、I S O 14001 国際承認証をアーサー氏から手渡された。中央に奥継雄社長、右に五百旗頭忠男氏。



60 社の方々が参加し、熱心にパネルディスカッション「水なし小ロットカラーで商売繁盛」を聞き入る。

できごと

今月の新会員登録は全員日本の方である。東京都千代田区の二葉印刷株式会社・社長・小川正男氏、東京都中央区の資生堂開発株式会社・部長・金子昇次郎氏、亜細亜証券印刷株式会社・部長・中野研一氏
以上(訳・T . I)